ガザミ放流4県共同高度化試験-操業状況

山口　大輝

ガザミは、有明海沿岸4県で広域に利用されている重要な漁獲対象種である。漁獲量の増加や資源回復を目的とした試験放流が行われているが、正確な放流効果の算出には、漁獲動向の把握が不可欠である。本試験では、ガザミを対象とした漁業の操業状況調査を行ったので、その概要を報告する。

方　法

2021年5月～12月にかけて、佐賀県有明海漁業協同組合大浦支所に所属する、ガザミを対象とした固定式刺し網漁業者15名に、操業日誌（出漁の有無，漁獲尾数等）の記入を依頼し、操業実態を取りまとめた。また、年間操業日数の把握は，有明海漁協の各支所へ聞き取ることで行った。さらに、月に1回程度、漁獲物を測定し、平均甲幅長、平均重量を求めた。なお、8月は漁獲物を測定できなかったため欠測となった。

結　果

1日1隻当りの漁獲尾数（CPUE；尾/日・隻、以下CPUEとする）は、漁期の前半は低い傾向を示し、夏以降の9～10月に高い値を示し、それぞれ123.4、136.6であった（図１）。

県内操業数の推移（図２）は、5～8月まで146～234隻/月だったものが、9月から急増し、11月まで575～

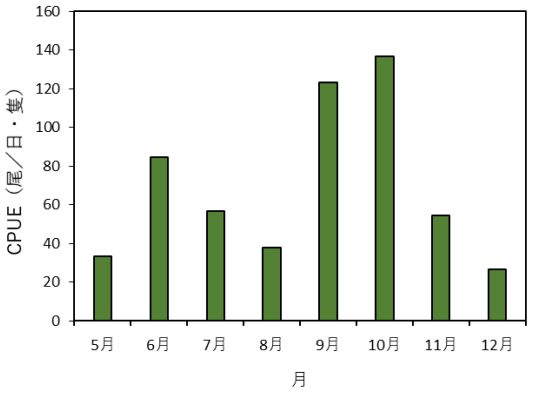
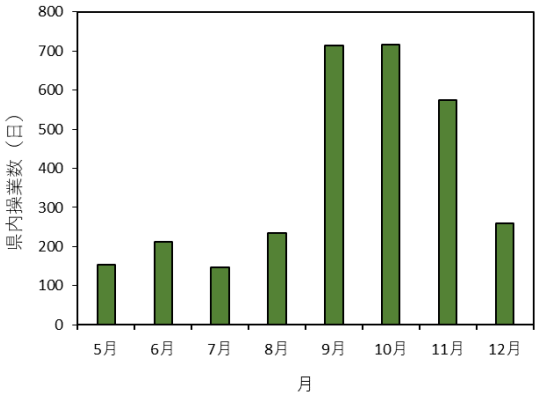


図１　　各月のガザミのCPUE



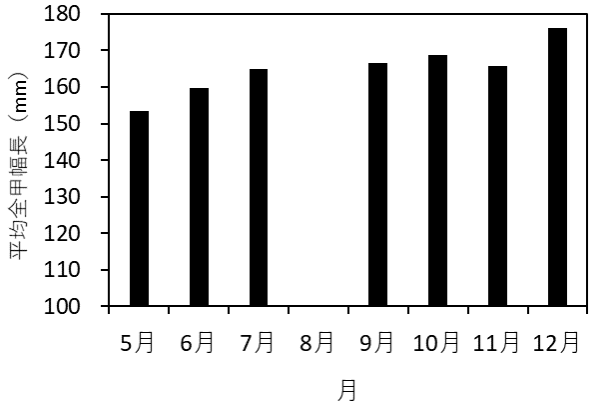


図３　　各月の漁獲物の平均全甲幅長

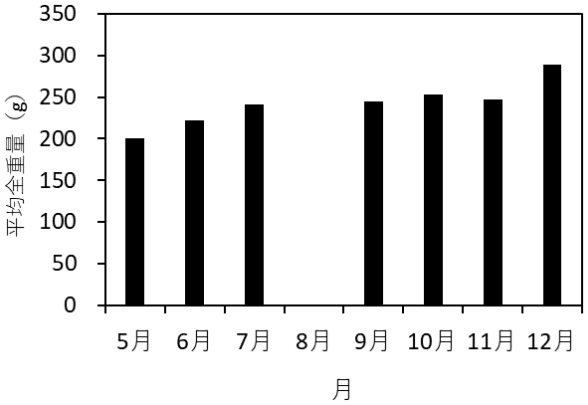


図４　　各月の漁獲物の平均全重量

715隻/月とり、12月には479隻/月とやや減少した。

各月の漁獲物の平均全甲幅長は、8月を除き、12月で最大を示し176mmであった。最小は5月で153mmであった。

各月の漁獲物の平均全重量は、平均全甲幅長と同様の傾向で12月で最大を示し288gであった。最小は5月で201gであった。

以上の結果から2021年度のガザミの漁獲量は、65.2トンと推定された。

文　献

１）上田　拓，篠原　直哉，大庭　元気，上利　貴光，上原　大知，菅谷　琢磨，井上 誠章．有明海福岡県地先で放流されたガザミ種苗の成長，移動，放流効果．福岡水海技セ研報　2019